

●2019 UHMS 学会レポート

2019年6月26日から29日、米国自治連邦区 Puerto Rico の Wyndham Grand Rio Mar Puerto Rico において「UHMS 2019 ASM (Undersea & Hyperbaric Medical Society 2019 Annual Scientific Meeting)」が開催されました。

日本でも以前に、一部の医師達による減圧障害の治療は NBO (常圧酸素吸入) のみで十分、との主張が波紋を呼びましたが、今回のプレコースのテーマは減圧障害の治療でした。NBO は減圧障害の決定的な治療となりうるかとの問いに対して、Moon R は遠隔地で搬送のリスク、費用と、症状の兼ね合い (mild, 後遺症が残りそうになり; 重大な神経症状が無い) といった限定的な状況であれば有り得る、と報告しました。オーストラリアからは、8 再圧治療施設へのアンケート調査結果として、NBO 数時間で症状が消失した状態で当日受診の場合、6 施設は再圧する (炎症抑制、再燃予防)、2 施設は再圧しない (NBO 続ける、経過観察)、と報告されました

(Wilkinson D)。治療テーブル選択について、Denoble PJ は、23 カ国 134 施設からのアンケート調査結果として、「short table は減圧症の初回治療テーブルとして受け入れられない」: Agree 72%、「標準治療ができない場合に、専門医指示による short table 使用は許容される」: Agree 87%と報告しました。また、臨床研究上の問題点として、Freiberger J は、治療の Outcome を後遺症の有無とすることの問題点を指摘しました (軽度の痺れ残存と重度の麻痺残存を同列扱いで良いのか)。

特別講演では、Decompression sickness as an inflammatory disease. (Mitchell SJ) が多くの注目を集めていました。減圧症は気泡及びその二次的障害によって生じるとされますが、演題名にもあるように、それに疑問を投げかけた講演です。文献的考察から、潜水ストレスそのものが炎症を引き起こし減圧症発症に繋がる可能性を指摘し、潜水及び減圧により生じる炎症と気泡の両者が関連しながら減圧症発症に関与しているのでは、と結論しました。

【受賞報告】

東京医科歯科大学医学部附属病院高気圧治療部の山本尚輝先生が、” A hyperbaric, high-oxygen environment promotes injured rat muscle recovery by angiogenesis through reactive nitrogen species.” の演題にて、President’s awards: Best Resident/Trainee Oral Presentation の学会賞を受賞しました。